

令和元年(2019年)10月3日

各局長様

副市長
(財政課)

令和2年度予算編成について

1 日本経済と国家予算の動向

現下のわが国の経済は、個人消費は持ち直し、雇用環境も着実に改善するなど、緩やかに回復している。

先行きについては、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待されるものの、通商問題を巡る緊張の増大が世界経済に与える影響に注意するとともに、中国経済の先行きや金融資本市場の変動の影響に留意する必要がある。

このような中、国においては、「経済財政運営と改革の基本方針 2019」を踏まえ、「基本方針 2018」で示された「新経済・財政再生計画」の枠組みの下、手を緩めることなく本格的な歳出改革に取り組むこととしている。

一方、消費税率引上げ前後の需要変動の平準化を図り、経済の回復基調に影響を及ぼさないように万全を期す観点から、歳出改革の取組を継続するとの方針とは別途、消費税率引上げの需要変動に対する影響の程度や最新の経済状況等を踏まえ、適切な規模の「臨時・特別の措置」を講じることとしている。

2 姫路市の財政状況と今後の見通し

本市に目を転じると、本市財政は平成 30 年度一般会計決算において 51 年連続で黒字を確保したものの、社会保障関係経費をはじめとする扶助費は引き続き高い水準で推移しており、義務的経費の構成比が過去最高を更新するなど、財政の硬直化が進んでいる。

また、今後の大規模投資事業や老朽化が進む公共施設・インフラの長寿命化対策に多額の財源が必要であることに加え、経常的経費においても新施設の稼働に伴うランニングコストや公債費の増及び会計年度任用職員制度導入に伴う人件費の増などが予想される。

一方で、普通交付税の合併算定替が平成 28 年度から令和 2 年度にかけて段階的に縮減し、その影響額約 10 億円は代替財源がなく、一般財源の純減となることから、施策の優先順位を明確にし、これまで以上に既存事業の大胆なスクラップアンドビルドなくして、新規事業の実施や事業の拡充は困難な状況である。

しかし、このように困難な財政運営が求められる中にあっても、引き続き財政規律を遵守した持続可能な財政基盤を堅持しつつ、「活力あふれ、人が輝く、生きがい先進都市」を掲げ、LIFE という英語にこめられた3つの意味、「命」、「一生」、「くらし」の3つの LIFE を守り、支え

る事業を推進していかなければならない。

3 予算編成の基本方針

令和2年度予算編成では、普通交付税の縮減に対応した歳出の見直しを前提に、財政規律を遵守した健全で持続可能な財政を基礎とし、最終年度を迎える本市総合計画の総括となる「姫路市総合計画・第4次実施計画」及び新たに策定する「新総合計画」や「姫路市行財政改革プラン2024」を踏まえ、常に経営感覚を意識しつつ、行政課題に的確に対応するなど、本市が目指す都市像「生きがいと魅力ある 住みよい都市 姫路」を実現するため、次に掲げる7つの重点施策、分野に予算を重点化し、主要事業を着実に推進する。

(1) 7つの重点施策

- ①「命を守る安全安心体制の充実」
- ②「命輝く、生涯現役社会の実現」
- ③「未来を担う子どもたちへの支援の充実」
- ④「安心して過ごし続けられる社会の実現」
- ⑤「くらしを豊かにする観光・産業の振興」
- ⑥「くらしを充実させるスポーツ・文化の振興」
- ⑦「くらしを支える都市基盤の整備」

(2) 重点分野

重点施策を推進するとともに、これらに関連した事業の積極的な展開による相乗効果を生み出すため、7分野を重点分野に指定し、予算の重点化を図る。

- ①救急医療・防災
- ②生きがい・福祉
- ③子育て・教育
- ④健康・生活基盤
- ⑤観光・産業振興
- ⑥スポーツ・文化
- ⑦インフラ・社会基盤

(3) 主要事業

重点施策等を踏まえて選定された主要事業については、局長重点事業として優先的に予算を配分する。特に、ひめじ創生戦略及び連携中枢都市圏ビジョンに掲げる事業については、積極的に推進する。

(4) 行財政改革の徹底

現在策定中の「姫路市行財政改革プラン2024」を踏まえ、組織が掲げる目標の達成に向け、アウトカム(成果)に着目し、事業の最適化に努めること。自律的事業点検については、現状分析や課題整理を的確に行い、費用対効果の向上に向けた見直しを確実に実施し、予算要求に反映させる。

また、カイゼン提案に積極的に取り組むとともに、還元型インセンティブ予算制度により、予算編成、予算執行における職員の創意工夫をより一層活性化させる。

4 予算編成日程

予算要求締切:令和元年 10月 24日

予算案確定:令和2年 2月初旬